

“メイドイン岐阜”を全国へ “メイドインジャパン”を世界へ!

～機械×電気×商社の力を融合して日本のモノづくりを全力サポート!～



株式会社 メカトロニクス

代表取締役社長

駒 卓弥 氏

- 住所：飛騨市古川町宮城町500-1
- TEL：0577-73-2116
- URL：<https://www.mechatronics.ne.jp/>
- 事業内容：ロボットSier、環境プラント等生活インフラのエンジニアリング事業、産業設備機械・省力化装置の設計・製作、配電盤・自動制御盤の設計・製作、産業用機器・電気機器の販売・修理・メンテナンス、梱包資機材・ねじ等金物類・機械工具等の卸売・小売
- 従業員数：40人(グループ計120人)

■ 事業の強みは勝ちパターンの多さ

聞き手：まずは事業内容についてお聞かせください。

駒社長：当社には産機営業部、電機営業部、特販営業部、総務営業部の4部門あります。主にディフェンスを担う総務以外の3つの部門が事業の柱となっています。

産機は一番歴史が古く、主に加工機・専用機・省力化装置等の産業設備機械を設計・製作・メンテナンスしています。公共工事では環境プラント、主に下水処理施設や浄水施設、ゴミ処理施設等、生活インフラのメンテナンスを幅広く請け負っており、地域と人々の暮らしを守る仕事です。

電機は、主に機械や設備を自動化・省力化・ロボット化しています。機械に指示を出す頭脳に当たる自動制御盤や配電盤の設計・製作と据付・配線等の電気工事をしています。そしてロボットシステムインテグレータ(=ロボットSier)です。産業用ロボットを使って“人の代わりに何をさせるのか”を考え、ロボットシステムを構築し、日本の働き手不足を解決する仕事です。

特販は、商社部門です。産業用機器や電気機器はもちろん、梱包資機材・ネジやボルト・接着剤・グローブ類、工場が必要となる安全用品等々、様々な副資材を販売しています。お客様が困っていることに気付いたら、もしかしたらお力になれるのでは…と考え、お客様の“困った”を解決するため積極的な提案に取り組んでいます。

この機械(産機)、電気(電機)、商社(特販)の三本柱を絶妙に組み合わせた勝ちパターンの多さが当社の特徴であり、最大の強みです。

■ 始まりはモーターの巻替え修理から

聞き手：御社の歴史、またその中での転換点についてはいかがでしょうか。

駒社長：創業者は祖父の駒 高吉です。祖父は戦時中、中国で満州鉄道の技術者として働いていたのですが、帰国後その持ち前の技術を活かし「駒電機商会」として、モーターの修理・販売を始めました。それが昭和23年です。

コツコツとひたすらモーターの巻替え修理をしていたそうですが、高度経済成長期にはどんどんモーターの需要が増え、その周辺機器である設備機器や機械装置も手掛けるようになっていきました。

その後、伯父(父の兄)の高一が継ぎ公共工事の本格受注を手掛けるようになり、今では売上の約半分を占める仕事の足掛かりを築いてくれました。次に父の卓雄が継いだのですが、ライバル企業も出てきて「この飛騨古川だけでなく、他のエリアにも攻めていかねば…」と昭和59年、高山市の拠点開設を皮切りに、下呂、神岡へと進出しました。さらに昭和62年には、機械技術と電気技術のイメージから現在の「メカトロニクス」に社名を変更しました。この各拠点の開設と社名変更が、会社として大きな転機だったと思います。

■ 県内初のメガソーラー発電所に着工

聞き手：入社されたのはいつ頃だったのでしょうか。

駒社長：平成6年22歳の頃です。先代の父からは“お前を社長にすることはできないからな…”と念を押される形で入



【写真左】
首里城(復元工事中)の守礼門
前での1枚
2024年5月に創立75周年の
記念事業として沖縄旅行に行っ
てきました。

【写真右】
ロボットティーチング体験の様子
2日間のインターンシップでは、
数種類の仕事を体験できます。
濃密で充実した時間となり好評
です。

社しましたが、何故か今では社長をしています(笑)。常に戦いの連続でしたが、平成16年に副社長に就任し、平成18年に社長に就任しました。副社長就任後しばらくは、辛く苦しい時期もありましたが、おかげで強くなれた部分もあると思います。

その後は中津川営業所、子会社で自動車部品製造の(株)飛騨ダイカスト、食品加工の(株)グリーンポケット飛騨、自動車修理・販売の(株)リックと、立て続けに展開しました。アイデアマンだった父が経営から離れ自由に営業力と人間力を発揮した功績です。この頃が次の転機だと思います。

更なる転機は、平成25年、高山市に「メカトロニクス 高山メガソーラーパーク」を開設したことです。岐阜県初のメガソーラー事業として着工しましたが、雪国の屋外工事を予定通りに進めるのは至難の業です。完成は岐阜県2番目となりました。開設に至るまでは、本当に苦労の連続で大変でしたが、新規事業立ち上げの経験は大いに勉強になりました。この事業のおかげで、経営者としての心理的安全性が格段に増したのが、私にとっての最大の転機です。

聞き手: ちょうどリーマン・ショック後の頃でしょうか。

駒社長: そうですね。私たちの世代には、バブル崩壊よりインパクトが大きいと思います。順調に伸ばしていた自動車業界へのロボットシステムの納入もパタリと止まってしまい、ロボット事業の落ち込みに呆然とする状況でしたが、その後は美濃加茂営業所を開設、平成29年に(株)高山ロボットセンターを立ち上げ、ロボット事業の事業領域を拡大し、更に伸ばしています。

■ 粘り強さとバランス

聞き手: ぜひ今後の展開についても教えてください。

駒社長: コロナ禍の際には、ほぼ全ての産業がシュリンクしてしまい、民需の落ち込みに苦労しましたが、じわじわと伸ばしていた公共工事のアクセルを一気に踏み込み、売上も利益も予想以上に伸ばすことができました。今後は官民ちょうど半々ぐらいのバランスを維持しながらの受注増が理想だと考えています。事業領域と営業エリアについてもバランスに気を付けながらの展開を意識しています。いきなり飛び地を目指すのではなく、既存の技術と知識にプラスして、経験を活かしつつ隣の領域についても新たに学習して事業領域を広げていくこと。営業エリアは、1時間半程度で移動できる“隣同士”の距離感と効率性を考えつつ、隣の領域、隣のエリアと助け合いながら次の展開に

繋げ伸ばしていくのが当社のスタイルです。

聞き手: 今は人材確保、育成も大変です。

駒社長: 重要かつ永遠の課題ですよ。当グループの企業理念にもある通り、まずは何よりも事業に携わってくれる社員とその家族が幸せであることを大切にしたいと考えています。より安全で働きやすい職場環境にするため「仕組化委員会」が主導して仕組み改善に取り組んでいます。

様々な取り組みをしていますが、資格取得支援として、資格手当の支給はもちろん、必要な費用は全額会社負担、更に合格祝い金が支給される資格も結構あります。スキル面では、毎月様々な勉強会を部門別に企画実施していて、所属の違う部門の勉強会にも参加可能にしています。「スキルアップマップ」により、できるだけ属人的な業務を最小化する人材育成を図っています。

旅行や懇親会等社員同士の交流を深める仕組みも様々です。「レクリエーション委員会」が企画し、昨年は沖縄旅行、家族も参加できるボーリング大会等々を実施しました。

様々な取り組みを進める中で時にはネガティブな意見が出ることもありますが、慌てず、焦らず、でも諦めず…そこは前向きに必要な時間をかけて、共に考え、共に行き、共に成長できるよう、粘り強く取り組んでいます。

聞き手: 最後に、休日の過ごし方やご趣味についてもお聞かせください。

駒社長: 自分の人生を考える余裕もなく「24時間戦えますか」常態で猛烈に働いていた時期も長くありましたが、今はきちんと休むようにしています。スポーツ観戦が好きで、先日も「M.C.S.C.ラリーハイランドマスターズ」というモータースポーツの大会と同日開催のバスケット「岐阜スワープス」の試合をはしご観戦しました。ボクシングや総合格闘技を観るのも大好きです。

読書も好きですが、最近はオーディオブックで小説やビジネス書を倍速で聴いたりもしています。

聞き手: 本日は貴重なお話をありがとうございました。

聞き手 (一社)岐阜県経営者協会 広報部会委員

高山信用金庫

常務理事 経営管理部長 **建石 隆**

経協ニュース

経済3団体合同記者会見を開催

1月16日(木)岐阜グランドホテルにおいて県内経済3団体、(一社)岐阜県経営者協会 山口 嘉彦 会長、岐阜県商工会議所連合会 村瀬 幸雄 会長、(一社)岐阜県経済同友会 柳原 幸一 筆頭代表幹事の年頭記者会見が開かれ、各団体が令和7年の基本方針を発表しました。

山口会長は今年に懸ける決意に「変」という一字を示し、「DXやAIを活用して人手不足を解消し、仕事内容を変えるように、『変わる』ではなく、『変える』という思いで書いた」と述べました。

尚、当協会における令和7年の重点取組事項は、以下の通りです。



▲右から
山口嘉彦会長、村瀬幸雄会長、柳原幸一筆頭代表幹事

重点取り組み事項

1. 社会経済変化への取組

- ・ サステイナブルな資本主義に向けた好循環を実現するため、SDGs、DX、GXへの取組、価格転嫁の促進などの社会的課題に関する啓発活動を他団体との連携を模索し推進する。
- ・ 行政等と連携し、中小企業の生産性向上と新しい価値を生み出すための変革を支援し、地域経済の活性化に取り組む。

2. 人材活用への取組

- ・ 多様な人材の活用と業務の効率化を推進し、自社にとって最適な雇用システムの確立を支援する。
- ・ 付加価値の最大化を目指す働き方改革を追求し、従業員のニーズに合わせた柔軟な働き方の実現。仕事と育児、仕事と介護の両立を推進し、従業員のエンゲージメント向上につながる職場環境整備と生産性向上を支援する。

3. 人材採用・育成への取組

- ・ 就職活動の早期化に対応するため、インターンシップから採用まで有機的に連携した新卒採用を支援する。
- ・ 地元に着目して活躍し続ける人材の確保と、県外からの新たな人の流れを創出するため、行政等と連携し企業の多様な人材の採用を支援する。
- ・ 岐阜県に着目して活躍する人材の育成を目的とし、各種研修会や個別の企業ニーズに応じて登録講師を派遣する社内研修会などにより、企業の人材育成を支援する。

「第42回 学術産業懇談会」を開催

1月22日(水)岐阜大学にて、岐阜大学工学部と会員企業 人事担当者の学術産業懇談会を開催しました。

岐阜大学工学部から学部長をはじめ、10名の教職員の皆様、会員企業からは、44社52名の皆様に参加いただきました。

※本会は、岐阜大学工学部の学生・院生の進路状況を、工学部就職担当教授から説明していただき、会員企業の採用活動の一助とするものです



第2回 パソコンセミナーを開催 **西濃支部**

12月19日(木)大垣市情報工房にて開催しました。指導は、グレートインフォメーションネットワークの講師3名が担当し19名が受講しました。

今回は、「エクセルではじめるデータ分析」をテーマに、受講者は講師からの例題をもとに、データの傾向の把握や視覚化、シミュレーションやデータ整形について理解を深めました。



管理職のためのハラスメント研修を開催 **東濃支部**

12月23日(月)多治見商工会議所にて、講師にグットライフ設計塾の菅田 芳恵氏(当協会登録講師)をお招きし開催しました。

受講者にはハラスメントの基本知識や管理職のためのハラスメント予防策などを、ペアワークを通じて学んでいただきました。



チームを目標達成に導くための人財マネジメント研修を開催 **東濃支部**

1月17日(金)多治見商工会議所にて開催し、講師に市原 由香子氏(当協会登録講師)にお務めいただき、職場のマネジメント術に焦点を当て、働きやすい職場づくりを観点に職場の心理的安全性の高め方・部下のモチベーション向上方法について、具体的手法を交えて講義が行われました。

すぐにでも実践できる内容が多く、満足度の高い研修会となりました。



各務原支部事務局会議を開催 **各務原支部**

1月23日(木)岐阜車体工業(株)において開催し、7名の委員にご参加いただきました。

議題としては、12月5日(木)に実施した各務原支部優良企業視察会(視察先: 株関ヶ原製作所)に関する振り返りと、次回セミナーについて当日の役割確認や、事前準備の内容について話し合いました。



開催案内

●VR体験とアンガーマネジメント **中濃支部**

日 時 2月20日(木) 13:30~16:00

会 場 アピセ・関 第1会議室(関市平和通7-5-1)

講 師 ・グループホーム てんじゅ所長 ケアびと育成Lab. 主宰 平野 まゆみ氏
・中部電力(株) 総務・広報・地域共生本部 地域共生計画グループ 専任課長 玉木 健二氏

費 用 無料

●賃金と労働を考えるセミナー

日 時 2月21日(金) 13:30~16:30

会 場 グランヴェール岐山 2Fカルチャーホール(岐阜市柳ヶ瀬通6-14)

講 師 ・(一社)日本経済団体連合会 労働政策本部 上席主幹 山田 佑氏
・西脇法律事務所 弁護士 西脇 明典氏

費 用 14,300円 ※人事労務 年間会員は無料

新規会員のご紹介

岐阜支部

■株式会社環境測定センター

設 立 昭和47年5月10日

所 在 地 羽島郡岐南町上印食3-178

代 表 者 代表取締役 近藤 敬章

事業内容 環境衛生保全のため必要な分析・測定・調査及び環境計測機器の販売・保守



人と経営 2月号

(第74巻2号通巻569号) (2025年2月1日発行)

■編集発行人

広報部会長 堀 部 友 里

■発行所

一般社団法人 岐阜県経営者協会

〒500-8833 岐阜市神田町2-2 TEL 058-266-1151 URL <https://gifukeikyo.org/>

■印刷・製本

株式会社印刷工房 〒501-0597 岐阜県揖斐郡大野町下磯750-1 TEL 0585-36-0201